

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 外紙報道（在米その他公館関係）(1)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43804">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43804</a>

サンフランシスコ 巻

北米局長  
参事官  
北米課長

15297  
252-2-17  
桑總才64号  
昭和42年8月25日

外務大臣殿

任サンフランシスコ  
島 總 領

沖繩問題に関する論評報告

8月22日付サンフランシスコ・ゴシップ紙は「沖繩の地位について話し合が必要」と題する同紙の特約コラムニスト Boyce Brier (同氏は軍に奉旨招待記者として訪日の経験あり。)の外交論評を掲載し、同論評の要旨記事抜粋の上、下記のとおり何等は参考までに報告申上げ。

記

要処理	要連絡
要研究	要鑑
課長	内務
英吉	河津
田中	吉田
森山	坂元
相川	岡田
中田	
藤本	
黒須	

42.8.28

(要旨)

1951年対日平和条約により沖繩は米国の管理下に置かれ、再来米軍は東支那海に対する防上の要として同島に永久の軍事基地を建設し占拠を継続している。

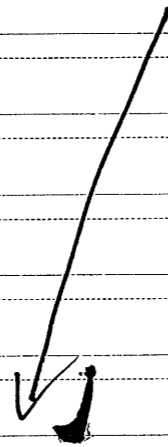
沖繩には約100万人以上の日本人の居留地あり、日本政府は1950年秋米軍の占領の返還を求め、条約の改訂を要請したが、米軍側の軍事的理由から日本政府の要請は耳を藉としなかつた。

最近中共が原爆を開發し、これにより米軍の沖繩撤去という構想に対し、日本政府の関心は弱まるといわれるが、依然として沖繩問題は日米両国の外交上、最重要の課題である。

米国は本問題の解決方針として、沖繩の基

地位保持しつつ、他方住民の管轄権を  
日本に存し返還後日本に存し合意  
し合意が必要だ。

(本文)



" 沖縄の地位について話し合が必要 "

沖縄は日本と台湾の間に位置する島の中  
では最大の島であり、主として農漁業に従事する約  
百万の日本人が居住している。

同島は太平洋戦争中、対日進攻の戦略的  
拠点であったが米軍はこれを確保するために多大の  
損害を蒙った。米軍は戦後直ちに東支那海に対  
する防衛上の要として同島に永久的基地を建  
設し、<sup>沖縄は</sup>現在では核と通常兵器施設を兼ねた  
米軍最大の海外基地の一つとなっている。

1951年対日平和条約により、同島は防衛  
上の目的から米国の管轄下に置かれることにな  
ったが、1950年代の末に日本は、沖縄をその  
管轄下に返戻するため条約の改訂交渉を開始  
した。

米軍当局は軍事的要請を重視おあり、  
沖縄住民の要請に充分は考慮を払っていないといわれているが、もっと重要なことは、国民的誇りと主権の問題が日本人の心懐と政治のなかでは至高のものとしての位置にあることである。

最も急進的な一部政治家のみが、従来より米軍基地の撤去を要請し続けているが、勿論米軍当局はこの問題について一切の話し合いを拒否してきた。

最近中共が原爆を用意しているという情報は米軍当局にとって有利となり、予備的な同島返還交渉に対する圧力は未だ続いているものの、東京では米軍の沖縄撤去という構想に対する関心の増大が窺われている。

日本国民は日中戦争が継続されている

限り沖縄問題が容易に片付けられることは望ましく  
知られている。しかし事態は徐々ではあるが好転には  
お、佐藤首相は先週、来月11月ワシントン公式  
訪問の機会にこの問題をあらためて話し合おう  
明らかにして、同首相は、沖縄の占領を不  
自然なものとして、解決への目途を樹つたいと  
述べた。

日本国民がこの問題をやむやむの儘に  
置く心算では、沖縄問題理事会という  
首相との報告機関が存在することにより明らか  
である。

ラインワー元駐日大使は沖縄問題は  
日米両国外交上の最重要課題であると述べて  
いるが、米国のまる22年間占領を続けていること  
を考慮すれば、まさにその通りであり、同時に日本

国民が沖縄基地について相反の感情を抱いてこの  
ことも理解しているところである。

毛中共政権の完全な崩壊は別として、中共の  
の短距離ミサイル<sup>1000</sup>対日攻撃は恐らく三三年  
後には可能となるであろう。その場合毛政権の  
崩壊は必ずしも日本にとって脅威の軽減には  
ならないであろう。

防衛上、或は中共の対日攻撃阻止の観点から  
すれば、日本は米艦隊の作戦と沖縄基地に  
頼るしか方法がないのであるが、米艦が例えばキュー  
バに於けるような如く、即ち敵地~~に~~作戦~~を~~基  
地~~として~~敵軍事基地を  
~~維持~~保持しながら、日本に對し、沖縄  
住民管轄権を返還する条約の改訂を考  
慮することは決して困難なことではないように思える。

日本内地には日本政府の主権を損うことなく米軍基

地が現に存在している。

仮りに米國政府が沖縄問題について日本と流  
し合ふことを拒ばねばならぬ充分な理由があるら  
ば(国防総省内の係官連の避々難々反対  
論は論外として)その理由を明らかにすべきである。

現在のところその理由は一つとして明らかに  
されていない。

付属物同封

本信寫送付先 米、ロ-日-7、102

Tuesday, August 22, 1967

*San Francisco Chronicle*  
**Royce Pfeiffer**

## Talk Needed on Okinawa Status

**OKINAWA IS THE LARGEST ISLAND** of a group lying halfway between Japan and Formosa. It has a million Japanese inhabitants, mostly farmers and fishermen.

It was a strategic approach point in the Pacific war, and the Americans suffered heavy losses in taking it. They immediately began setting up a permanent base as the key to the East China Sea. With nuclear and conventional installations, it is one of the most powerful American bases abroad.

Under the Japanese peace treaty, 1951, the islands were left under American jurisdiction for defense purposes. In the late 1950s the Japanese began talk of revising the treaty to return Okinawa to Japanese jurisdiction. They said the occupation authority was too concerned with military needs, not enough concerned with civilian needs.

But more, questions of pride and sovereignty were uppermost in the Japanese mind and politics. Only the most radical politicians, however, have demanded American bases be dismantled. The American military, of course, has resisted all talks on the subject.

★ ★ ★

**RECENTLY CHINESE** nuclear bombs have come to the aid of the American military. The idea of evacuation of Okinawa became less attractive in Tokyo, though pressure for preliminary talks did not end.

The Japanese are aware a definitive settlement is impossible while the Vietnam war is on. But these matters are slow-moving at best, and last week Premier Eisaku Sato announced a new effort will be made to start talks when he pays an official visit to Washington in November. He called the occupation "unnatural," and he wants a timetable.

That the Japanese don't intend to drop the question is definitely evidenced by a 16-member Okinawa Problems Council as an advisory body in the Premier's office.

★ ★ ★

**EX-AMBASSADOR** Edwin O. Reischauer, now a Harvard professor, has said the Okinawa question is a foremost irritant in Japanese-American relations. This is understandable when it is considered the Americans have been in full occupation for 22 years.

So is the Japanese ambivalence understandable. Barring a complete breakdown of the Mao regime, a Chinese bomb could probably be delivered in Japan by short-range missile in two or three years. But Mao's fall would not of necessity allay the threat.

In defense or deterrence, the Japanese have only American fleet operations and the Okinawa bases. It would not seem inordinately difficult to devise a treaty revision which would return civil jurisdiction to Japan, while retaining the base in a status like that of Guantanamo in Cuba, a hostile territory incidentally. American bases are already in Japan proper without impairing the sovereign functions of the Japanese government.

If the Washington government has a sound reason to refuse even to discuss the matter (excepting the inevitable antagonism of the Pentagon generals and admirals) it should make it known. A reason is not at present visible.

August 22, 1967